

体験で学ぶ 今日からできること

10月12日・13日 安曇野環境フェア2024



「環境にやさしい安曇野暮らし 身近なライフスタイルを変えてみよう!」をキャッチフレーズに安曇野環境フェアが堀金総合体育館で開かれました。会場には団体や企業など約50ブースが出演。環境に関する取り組みや製品の展示、クイズなどを楽しみながら環境を学ぶ来場者でにぎわいました。特に手回しの発電機で電車を走らせるブースは子どもたちに人気を集めていました。親子で会場を訪れた大場翔平さん(36)は「体験型の展示で親子で楽しめた。家庭でもできることを子どもと楽しみながら取り組んでいきたい」と身近な環境の大切さを再認識していました。

安曇野の食材で 気分はピザ職人

9月16日 親子de地産地消料理教室



地域の食材に親しみ、旬を味わう親子料理教室が堀金公民館で開かれました。当日は安曇野調理師会の皆さんの手ほどきを受け、12組34人の親子が地元産のキノコやブルーベリーなどを使い2種類のピザ作りに挑戦しました。親子で力を合わせて生地を伸ばしたり具材をトッピングしたりして、思い思いのピザが完成。出来たてを味わって安曇野の恵みを満喫しました。

参加した赤穂佳代子さん(堀金烏川)は「子どもと一緒に楽しめるレシピだった。家でも作ってみたい」と話し、娘の柑南さん(7)と莉月ちゃん(3)は「おいしい!」と熱々のピザを頬張っていました。

会いに来たよ 私が植えたヒノキ

9月14日 室山ヒノキの下草刈りイベント



三郷小倉地域の皆さんが、「昆虫も住みやすい、新しい室山を育てよう!」をテーマに「さとぶる。」の一環で室山西側のヒノキ林の下草刈りを行いました。この場所は3年前、三郷西部認定こども園の園舎に使う材を切り出した翌年に当時の園児や地元住民がヒノキの苗を植えた場所。参加した26人は、大人の背丈ほどに成長したヒノキの根元の草を刈ったり、カブトムシの幼虫などを探したりして汗を流しました。

2年前自らヒノキを植樹した広瀬環君(12)は「植えた時はひざ下くらいだったのに、成長が早い。もっと大きく育てほしい」と笑顔を見せてくれました。

憩いの池 清掃ボランティア体験

9月8日 大阪公立大学・遠藤ゼミが市内合宿



水資源の研究をしている大阪公立大学・遠藤崇浩ゼミの教員・学生9人が安曇野市を訪問。名水の地として知られる「憩いの池」の清掃を体験しました。

憩いの池は例年、藻が繁殖し、市やボランティアで清掃を行っています。今回の訪問は、遠藤教授が市水環境審議会長を務めるなど、市の施策づくりに関わったことが縁で行われました。学生たちは、水底をかき回して藻をはぎ取る作業を体験。学生は、「都市部では『水の価値』は水道水でしか感じられない。水のきれいさを感じ、水が価値あるものと実感できた」と、湧き水をじかに感じるスポットの希少性を話してくれました。

転んでもはじける笑顔 山中に響く歓声

10月5日 安曇野市MTBコースフェスティバル

オープン3周年を迎えた安曇野市マウンテンバイクコースで記念イベントが開かれました。会場には愛好家をはじめ、SNSやチラシを見て興味を持った親子など、大勢の参加者が秋の須砂渡を疾走しました。市MTBコースはオープン以来、施設の管理を(一社)MSJに委託。当日は同社がこれまでに整備してきたコネクトパークI~IIIを使用し、タイムトライアルや初心者教室などが行われました。また、3人のMTBゲストライダーが出演し、デモ走行で会場をわかせていました。

初心者教室に参加した清水颯哉君(6)は「転んだのが悔しかったけど、道がボコボコしていて楽しかった。また連れてきてほしい」と父の克哉さんをお願いしていました。



触れる・感じる 安曇野を立体作品に込めて

9月23日 AKAP夏展オープニングセレモニー

京都芸術大学の大学院生が市内を訪れ、人や自然・文化と触れ合いながら制作した作品の展覧会が開かれました。この展覧会は、同大学教授で東京藝術大学名誉教授・保科豊巳さんのゼミ「保科ラボ」によるプロジェクト。初日となったこの日は、メイン会場の安曇野高橋節郎記念美術館でオープニングセレモニーと学生による作品解説が行われました。会場には、大学院生と南安曇農業高校の生徒10人が共同制作した、古い農具を高校生の自由な発想で創作した立体造形作品も展示され、作品のこだわりポイントを熱心に解説していました。

農具とペンを組み合わせた作品を制作した清水桜子さん(南安曇農業高校3年)は「農具の味のある色とカラフルなペンの色の絶妙なバランスを見てほしい」と作品への思いを話してくれました。

